

## 中国から伝えられた、星占い

あなたは、いま世界中にどのくらい(何種類)の「占い」があるかご存知ですか。

「占い」は、トランプ占いから占星術まで、実に3,300種類もの占いがあると云われています。

これは、地球の北半球に住む人間が見る事の出来る星の数ほどあるわけです。

よく物の数の多い事を「星の数ほどある」と云いますが、占いの種類もまさに星の数ほどあるわけです。

このことは、大昔からいかに人間が自分の性格や、自分の運勢、未来について関心を持ちそれを知りたがってきたかの証拠だといえるでしょう。

私が故高尾義政先生（算命学第十三代宗家）から指導をうけて勉強をして参りました「算命占星術（さんめいせんせいじゅつ）」は数ある占いのなかでも、最も神秘的でありながら最も合理的な中国の「占星術」なのです。

中国の占星術では「四柱推命（しちゅうすいめい）」「奇門遁行（きもんとんこう）」などが有名ですが、「算命術」はこれらのうちでは、いちばん精密な占いなのです。それは、中国では占星術のことを「算命（さんめい）」と云い、方向方位の占いのことを「算卦（さんげ）」と云っているのでもおわかりでしょう。

もっと具体的に申しますと「算命術」には、一人の人間の運勢を占うのに16通りの方法（16元法）があり、これを全部使って一人の人間をあらゆる方向から立体的に占う占術なのです。

四柱推命は16方法のうち「自然法（しぜんほう）」といわれる二つの方法をつかって占いますし、奇門遁行という占いは「八門法（はちもんほう）」一つだけで占っているのです。

従って「算命術」では、本人だけではなく、三代前までの先祖・三代のちの子孫まで、計七代にわたる運勢が判る占術なのです。つまり、一族の流れを占う術と申せましょう。

## 「算命術」とは……？

### ■ 「算命術」とは……？

「算命術」と云うのは「算命学」をもとにした「算命占星術」のことです。

算命占星術の原理である「算命学」は、宇宙自然の法則から説きあかされた、東洋的な思想の根源と云ってよいもので、中国の歴代皇帝が国を治め、より長く統治するための「帝王学」としてこれを学びました。

「算命学」の創始者は『鬼谷子（きこくし）』と云う人です。

### ■ 『鬼谷子（きこくし）』とは一体どのような人なのか……？。

「算命術」の創始者は『鬼谷子（きこくし）』と云い、今から二千三百年以上も前の、中国の春秋戦国時代に生きた人ですが、生れたところも名前も伝わっていません。

「鬼谷子（きこくし）」というのも、この人が隠棲（いんせい）した山西省（さんせいしょう）の地名から、後世の人がつけた呼び名ではないだろうか…と云われていますが、どうもすっきりしません。

しかし、世界的に有名な中国の歴史の本に「司馬遷（しばせん）」の書いた『史記（しき）』がありますが、それによりますと、鬼谷子（先生）は楚（そ）の国の出身で、斉（せい）に行き、そこで春秋（しゅんじゅう）戦国時代に活躍した「蘇秦（そしん）」・「張儀（ちょうぎ）」たちに「縦横学（じゅうおうがく・しょうおうがく）」を教えた……とありますし、その他「諸子百家」では「兵家」にその名を見ることが出来る、斉の軍師

「孫策（そんびん）【孫子の兵法の著者】」や、魏の惠王に仕えた将軍「龐涓（ぼうけん）」達も、ともに鬼谷先生について学んだ…とあります。

以上が漢代、あるいはそれ以前の資料のなかから集めたものですが「鬼谷子」の実像は全く浮かびあがってきません。

しかしながら、むしろこのようなケースは先秦の諸子百家（しょしひゃっか）のうちでも、経歴や事跡がはっきりしているほうが珍しいくらいですから、経歴や事跡が不明瞭であったとしても、鬼谷先生の実在性に異をはさむにはあたらないでしょう。（後世、蘇秦が書いたのか、誰が著わしかで史家たちの意見が分かれている本に「鬼谷子」というタイトルの著書がありますが、「史記」や他の文献には、まぎらわしくないように本のときには「鬼谷子」、人物のときは「鬼谷先生」と分けて表現しています。）

## こぼれ話

### ■春秋戦国時代の「縦横家」（じゅうおうか・しょうおうか）

中国の戦国時代では縦横家がしきりに活躍するようになりました。実力の争い(兵士の殺し合いの戦い)のほかに、外交・謀略による戦いも激しくなったのです。  
外交・謀略については「鬼谷子（きこくし）」といわれる人物がいて、その門下に二人の俊才がいました。  
「蘇秦（そしん）」と「張儀（ちょうぎ）」です。

蘇秦は「合従（がっしゅう）」の策をとり、超大国化した秦にたいして、燕（えん）・趙（ちよう）・韓（かん）・魏（ぎ）・齊（せい）・楚（そ）の六ヶ国が連合してあたろうとする政策を説いて活躍しました。

まさしく、合従は秦の力を防ぐ防波堤でした。

蘇秦は合従を成立させ、六国の宰相を兼ねました。

これにたいして、張儀は秦が六国の一国ずつと和親条約を結び、彼等が連合することを妨げる策をたてたのです。

「連衡（れんこう）」の策がそれです。横につなぐことから連衡といいますが「連横」とも云います。

張儀の切り崩しも激しいものがありました。

鬼谷先生の門下生時代、張儀はつねに蘇秦より成績が良かったのです。それなのに、蘇秦の合従策のために、秦は十五年ものあいだ、函谷関（かんこくかん）の東へ兵を進めることができませんでした。

### ■戦国七雄

紀元前1,100年頃の古代中国で「周（しゅう）」の名君「武王」が前王朝「殷（いん）」を滅ぼして周王朝を建国して以来330年、春秋の頃にもなると、さしも繁栄を誇った王朝も衰えを見せ始め乱世となつたのです  
この時代から550年、秦の始皇帝が全国を統一するまでの期間を後世の人たちは、「春秋戦国時代」と呼んでいます。

春秋時代は、周王朝の崩壊期で、その支配力が衰えて一地方政権なみに転落してしまいました。

それに比べて各地の諸侯は実力を蓄え、さながらに独立国を形成して互いが争い弱肉強食の結果、はじめは百四十ヶ国余りあったものが、十余ヶ国に減ってしまいました。

春秋時代の十二雄（じゅうにゆう）とよばれているのがそれで周（しゅう）・楚（そ）・鄭（てい）・晋（しん）・衛（えい）・宋（そう）・燕（えん）・齊（せい）・魯（ろ）・吳（ご）・越（えつ）・秦（しん）の国々です。

また、諸侯国においても支配権はかならずしも安定しておらず、実権は家臣たる貴族の手に移っているものが多く、それはあたかも我が国の足利時代末期の群雄割拠（ぐんゆうかっきょ）と下克上（げこくじょう）に似た時代であったと思われます。

戦国時代になると、乱立して争っていた小国などは次第に統合されて、韓（かん）・魏（ぎ）・趙（ちよう）・齊（せい）の四新興国と、秦（しん）・楚（そ）・燕（えん）の三大旧国からなる戦国の七雄（しちゆう）が生き残りました

この戦国時代の七ヶ国は国家戦略の秘術をつくしての攻防を繰り返したのです。

『戦国の七雄』のうち、最も優勢になったのは秦で、強力な国力をバックにして巧妙な「權謀術数（けんぼうじすう）」を駆使しながら、他の六ヶ国を征服して紀元前221年、遂に天下の統一をはたしました。

この時代にあって各国々を回りそれぞれに自説をかけて奔走し遊説（ゆうぜい）に明け暮れた遊説家達が多かったのですが「合掌の策」を説いて六ヶ国の宰相にまで上りつめた蘇秦「連衡の策」で秦の宰相になつた張儀が縦横家の代表と言えるでしょう。

## ■春秋時代と戦国時代の区分

戦国時代は篡奪(さんだつ)の時代です。超大国の晋(しん)が大臣に乗っ取られますが、あまりに国が大きいので、そっくり交替というわけにはいきません。

三人の大臣が分割してしまったのです。こうして趙(ちょう)・魏(ぎ)・韓(かん)の三国が誕生し、晋(しん)が消えてしまいました。(激しい晋陽の戦いの結果、晋の国第一の実力者であった知伯が趙・魏・韓の三氏によって滅ぼされ、晋国は事实上三国に分割されました。この三国が、周王朝から諸侯の称号を賜ったのは、それから五十年ほど経ってからのことですが、一般には知氏が倒された、前453年をもって戦国時代の始まりとする考え方をとっています。)

北宋(ほくそう)の司馬光(しばこう 1019~1086)の『資治通鑑(しじつうかん)』は、この三国が周王室から正式に諸侯と認められた紀元前四〇三年をもって春秋と戦国の区分としています。

このように、歴史書では春秋戦国時代を「春秋時代」と「戦国時代」に分けて考えるとき以外とまちまちで意見が分かれていますが『春秋(孔子編)』に書かれた春秋戦国時代の前期254年間(前770年~前476年)を「春秋時代」および『戦国策(劉向編)』で扱われた春秋戦国時代の後期254年間(前475年~前221年)を戦国時代に区分しているのが今日では定説になりつつあるようです。

## ■春秋時代の側面

春秋時代は競争の時代ですから、勝つためにすべてを結集しなければなりません。隣国より豊かになるためにはどうすればよいか?あるものは経済的な実利追求を主張し、ある者は精神面が重要であることを強調します。

優れた意見の持ち主は、諸侯に召し抱えられるのです。

職につき、立身出世するために、学問を志す者も増えてきます。立身とは関係なく、人間の目指すべきものは何か?なんのために生きるのか?そもそも人生とは一体なんであるのかという、思案に没頭する人もいました。春秋時代は、さまざまな戦争がおこったことよりも、さまざまな思想・学問が説かれ、それが記録された時代という面の方が、はるかに重要であると思われます。(いわゆる「百家争鳴」が活発におこなわれ、「思想の黄金時代」が花開いたのです。)

## ■諸子百家(しょし ひやっか)

諸子百家とは春秋・戦国時代に現われた、多くの学者や学派の総称ですが、次の①儒家から⑨農家までを「九流」と言い、⑩小説家を含めて「十流」と言います。()内はその人物に関する書名、系統を示しています。

- ① 儒 家 …… 孔子を始祖とし、身を修め人を治めて「仁(人間愛)」の実現をめざし、平和な秩序ある社会を築くことを主張した。[曾子・子夏(中庸)・子遊・子思・孟子(性善説)・荀子(性悪説)]
- ② 道 家 …… 老子を始祖とし、天性に従う無為自然の道を尊び、人為を否定し、外的な強制をこばんで、原始自然の社会を理想とした。[列子(「列子」)・莊子(「莊子」)・揚朱(為我説)]
- ③ 陰陽家 …… 陰陽五行説にもとづき、天文・暦数・方位などで、吉凶禍福を占った。[すう衍(陰陽五行説)]
- ④ 法 家 …… 帝王の絶対的権力を確立して人情や道徳を排し、厳格な法治による国家統制を主張した。[慎到・申不害・商鞅(「商子」)・韓非子(「韓非子」)・李斯]
- ⑤ 名 家 …… 名(言葉)と実(実体)との一致を求めた一種の論理学を唱えた。[惠施・公孫龍]
- ⑥ 墨 家 …… 兼愛説(博愛主義)を唱え、非戦(平和)や節儉を主張した。[墨子(兼愛説「墨子」)]
- ⑦ 縱横家 …… 鬼谷先生(「鬼谷子」)を始祖とし、弁説と策謀による外交策をもって戦国の諸侯の間に遊説した。[蘇秦(合從説)・張儀(連衡説)・孫策(「孫子」→兵家)・寵涓]
- ⑧ 雜 家 …… 一定の主義・主張に偏らず、各派の学説を取捨して総合を図った。[呂不韋(「呂子春秋」)・劉安(「淮南子」)]
- ⑨ 農 家 …… 君主も人民も平等に農事に従うべしとする農本主義を主張した。[許行(重農説)]
- ⑩ 小説家 …… 民間の珍しい話や説話などを語り伝え記録した。
- ⑪ 兵 家 …… 兵法・戦略、さらには国家経営の方策などを説いた。[孫武(「孫子兵法」)・吳起(「吳子」兵法)・孫策(「孫策兵法」→縦横家)]

## ■ 「占い」の分類（占いの原典は "宇宙"）

手相、人相などの観相学から、方位学・家相・地相・九星術・姓名判断・十二支占い・動物占い・数靈術・四柱推命・トランプ占い・ソロバン(算盤)占い・易占・陶宮術・ジブシー占い・西洋占星術・東洋占星術、等々、およそ3,000種にも及ぶと言われている数多い「占い」がありますが、それらの、どの占いを見ても、ひとつの共通点があります。それは、どの流儀をとってみても、その原点をたずねてみると、全ての占いが "宇宙"の動きに基因している……ということです。現在行われている、数ある "占い"を大別しますと、次のようになります。

1	2	3	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>手相</b> (中国で生れたもの) (印度で生れたもの) (ドイツで生れたもの) .....の3種類がある</li> <li>● <b>人相・骨相</b> (90%までが中国で生れて わが国に伝わったもの)</li> <li>● <b>毛相</b> (大変珍しい占いですが、 これも中国からのもので 漢方医学・鍼灸術などと 一緒に日本に渡来した)</li> <li>● <b>足相</b> (これも中国の漢方医学・ 鍼灸等と一緒に日本に伝 えられた。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>易占</b> 易経が根本にあり「四書五 経」(易経・詩経・書経・礼 記・春秋・左氏伝)の一つ。</li> <li>● <b>トランプ占い</b> 中国系(現在は日本に無い) ジブシー系 (西洋タイプ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>方位学</b></li> <li>● <b>九星学</b></li> <li>● <b>方鑑学</b></li> <li>● <b>姓名判断</b></li> </ul> <p>古流・呉流・漢流 戦後日本で生れたもの (これらの占い方を専門的には 「先天占術」に対して「後天 占術」とよんでいる。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>占星術</b></li> </ul> <p>東洋 (中国) 西洋 (中東) <b>算命術</b></p> <p>(インドにも星占いがあるが、 中国系と中東系の両者の影響 をうけていて、インド独自の 占術とは考えにくい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>推命学</b> (中国で生れた推命学に源を発 した占術に日本の「四柱推命 術」がある。)</li> </ul>
<p>◆ <b>現象のみをとらえた占い</b></p> <p>これらの占いは、学問的な裏付けや、論理的な面は殆ど持 ち合わせていません。 そのために統計的なものに頼 ることになります。</p> <p>※鑑定者個人の勘に頼る例が 多くなります。</p>	<p>◆ <b>偶然性をとらえる占い</b></p> <p>この方法は、運命を当てると言 う事よりは、教えるとい うことのほうに、目的があるよ うです。 つまり、ひとつの迷いごとに 対して、本人がとるべき道を 古代中国の思想の書にある言 葉で教えるのです。 原典は儒教の教えに支えられ ていますので、占いの世界と いうよりも、哲学として学ん だ方が、より価値を見い出す でしょう。</p> <p>※理論的なものは存在しません</p>	<p>◆ <b>改良方法としての占い</b></p> <p>自分自身の未来を、自分の希 い通りに動かそうとする、人 間の(精神)欲望が最も顕著に あらわれた占いの手法と云え るでしょう。 人間にとっては、大変有難い 占術ですが、使用方法を間違 えると大変なことになりかね ません。</p> <p>※占いの目的を、運命の改良だ けに重きを置き、その人の宿 命を考慮していないようなと ころがあります。</p>	<p>◆ <b>宿命をみる占い</b></p> <p>真に自分の運命を知ろうとす るならば、先ず自分の宿命を 鑑て、それに基づいた運命の 改良を試みなければなりません。</p> <p>※ (理論的)</p>